

WEEKLY SIGNAL

平成30年4月20日(金) 1421号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	4/23 (月)	4/24 (火)	4/25 (水)	4/26 (木)	4/27 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 600	△ 2,000	△ 2,000	△ 3,000	△ 4,000
財政他	+ 3,900	△ 12,000	+ 6,000	△ 2,000	+ 5,000
資金需給	+ 3,300	△ 14,000	+ 4,000	△ 5,000	+ 1,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(20年)	申告所得税揚げ		交付税特会借入・償還	
オペ期日	国債補充供給 + 300 共通担保(全店) △ 1,600 CP等買入 △ 200				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,000	国債買入 + 7,100 短国買入 + 2,500	社債等買入 + 1,300		
(日本)		企業向けサービス価格指数(3月、日銀) 営業毎旬報告(4/20現在、日銀) 基調的なインフレ率を補足するための指標(日銀) 保有する国債の銘柄別残高(日銀) 国庫短期証券の銘柄別買入れ額(日銀)	全産業活動指数(2月、経産省)	金融政策決定会合(27日まで)	完全失業率(3月、総務省) 有効求人倍率(3月、厚労省) 消費者物価指数(東京都都区部4月、総務省) 鉱工業生産指数(3月、経産省)
(海外)	米 中古住宅販売件数(3月) 欧 ユーロ圏製造業PMI(4月速報値)	米 仏首脳会談(ワシントン) 米 FHFA住宅価格指数(2月) 米 新築住宅販売(3月) 米 消費者信頼感指数(4月)	ASEAN首脳会議(28日まで、シンガポール)	米 週間新規失業保険申請件数(4/21終了週) 米 耐久財受注(3月) 欧 ECB政策判断 ドラギ総裁記者会見	米 独首脳会談(ワシントン) 米 GDP(1-3月、速報値) 英 GDP(1-3月、速報値)

【インターバンク市場】

<インターバンク>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

日銀当座預金残高は週初、短国・国債発行を主に前週末比2兆1,200億円減少の385兆2,800億円から始まった。その後、19日は国債発行により減少したが、17日の短国・国債買入れ、20日の国債買入を主に増加し386兆2,800億円を越えた。無担保コールON物金利は、年金定時払い後であることや、大型連休を控えていることから、調達を慎重に進める参加者が多く、軟調な展開になった。週初加重平均金利は△0.059%であったが、その後は△0.06%台に低下した。週末は更に弱含む展開となり、加重平均金利は△0.070%まで低下した。ターム物は資金運用ニーズが強く、ショートタームを中心に△0.05%台での出合いが散見された。来週は、国内では、金融政策決定会合(26、27日)、消費者物価指数、失業率(27日)、海外では、ECB政策発表、ドラギ総裁記者会見(26日)、米国GDP1-3月(27日)などが予定されている。

【オープン市場】

<C P>

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約7,600億円で、週間償還総額の約1,900億円から大幅増加した。先週に引き続き、商社や輸送用機器等の一般事業法人の発行再開が見られ、活況となった。週末の発行市場残高は、15兆3,500億円程度になった模様。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、引き続きマイナス圏内の出合い。来週の償還総額は、約1兆700億円となっている。引き続き、発行再開とGW越えの資金調達ニーズもあり、25日や月末日スタートでまとまった額での発行が見込まれ、大幅な発行超となるだろう。24日に、CP等買入オペアが2,500億円程度オファーされる予定。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合いであろう。

<TDB>

18日に行われた国庫短期証券1Y第752回債の入札は、最高落札レート△0.1757%(前回債△0.1408%)、平均落札レート△0.1796%(同△0.1427%)と前回債からマイナス幅を拡大。19日の3M753回債も最高落札レート△0.1744%(前回債△0.1625%)、平均落札レート△0.1804%(同△0.1685%)と、大きく低下した。セカンダリー市場は3Mが△0.18%、1Yが△0.182%で出合いが見られた。

<レポ>

足許GCは週初△0.16%~△0.17%から始まった。週央以降短国1Y、3Mの発行が続いたが、レート水準に変化は見られず△0.16%~△0.17%近辺。週末はレートが上昇する展開となり、△0.13%~△0.14%の出合いも見られた。SC取引では5年134回債のbidが増加、週初△0.20%台前半の出合いであったが、週後半にかけてレート低下。△0.50%半ばの取引も見られた。その他2年385・386回債、5年134・135回債、10年337・338・339・340・342・343・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。